

フッサール中期現象学に おける質料的転回

『ベルナウ草稿』研究

文 学 研 究 科

哲 学 歴 史 学 専 攻

哲 学 専 修

2 0 2 4 年 度

B B A 2 2 0 1 5

しもなか ゆうと
下 仲 湧 斗

目次

フッサール中期現象学における質料的転回.....	0
『ベルナウ草稿』研究.....	0
序論.....	1
1. 静態的現象学から発生的現象学へ至る過程での<質料>の位置づけの変化	4
1.1. 静態的現象学での<質料>.....	4
1.2. 静態的現象学から発生的現象学に至る途上での<質料>	6
1.3. 発生的現象学での<質料>.....	8
2. 中期時間論における自立的な質料を捉える試み	12
2.1. 初期時間論	12
2.2. 中期時間論	14
2.2.1. 『ベルナウ草稿』で導入される時間意識モデルの概要.....	15
2.2.2. 『ベルナウ草稿』第 11 番.....	19
2.2.3. 『ベルナウ草稿』第 12 番.....	30
2.2.4. 『ベルナウ草稿』第 13 番.....	36
2.3. 本章の結論：初期時間論から中期時間論への展開がもたらす意義.....	40
3. 結論と展望	45
参考文献	47